

|                            |        |
|----------------------------|--------|
| 自分の読書生活を振り返る<br>〈みやざきの言の葉〉 | 組 番 氏名 |
|----------------------------|--------|

高田さんは、平成二十四年が古事記編纂から千三百年に当たると知り、これまで読んだことのなかった神話や伝承に興味をもちました。そこで、学校図書館にあった「みやざきの言の葉」神話・伝承、民話編」という資料を読んでみることにしました。

【神話・伝承編「前文」(一部)】

今から八十年くらい前の昭和時代の始め頃まで、我が国の農山村や漁村には、たくさんの人々が住んでいました。  
山から木を伐出して町に運んだり、田畑を耕して米や麦を作ったり、海で魚や貝を獲って暮らしていたのです。  
その頃まで一軒の家族は、父母と子ども、おじいさん、おばあさんを含んで七、八人いました。家族が十人ほどいる家もありました。  
そんな村々では、子どもたちは大人から村の神様の話を聞いたり、山や川の伝説を聞いたり、どこからか伝わった昔話を聞くことができました。  
おじいさんや、おばあさんは、そんな話をよく知っていて、子どもたちに聞かせてくれたのです。  
古事記という古い書物は、今から千三百年前に作られました。上・中・下の三巻になっていて上巻は、「神代」の話です。ここに書かれている神様の話を「日本神話」と呼んでいます。大昔の人々は、この世界のもとを造ったのは神様であろうと考えていたのです。  
日本の神話は、「高天の原」「出雲の国」「日向の国」が舞台になっています。それで、日向の国が舞台になっている神話を、「日向神話」と呼んでいるのです。「天孫降臨」や「ニギノミコトとコノハナサクヤヒメ」、「海幸彦・山幸彦」などの話がそれです。  
神話の中の神様は必ずどこかの神社にまつられています。神社も神話を伝える大切な場となっています。

(一)「前文」に書かれていることから、どのようなことが分かりますか。次のア～エまでのうち、最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 古事記に書かれている神様の話には「海幸彦・山幸彦」の話が含まれないことが分かる。
- イ 神話の中の神様は昔から各家庭でまつられていることが分かる。
- ウ 昔の子どもたちは、古事記を読んで神様の話や昔話などを知ったことが分かる。
- エ 神社は、神話を伝える大切な場であることが分かる。

エ

(二) 高田さんは、この機会に「みやざきの言の葉く神話・伝承、民話編く」と同じジャンルの本をもつと読本は分類ごとに並べ、エまでのうち、高田

- ア 「九州地方の自然」
- ウ 「農山村の自然」

イ

〈解答のポイント〉  
 学校図書館の本は、「日本十進分類法」に則して分類されています。  
 「みやざきの言の葉く神話・伝承、民話編く」……宗教  
 「九州地方の方言」……言語  
 「神話の世界をめぐる」……宗教  
 「農山村の自然」……自然科学  
 「郷土の歴史を探る」……歴史  
 ※ これからも学校図書館を大いに活用し、目的に応じて本を選ぶことができるようにしましょう。

(三) 高田さんは、(二)で見つけた本を読み終えた後、次のような感想を述べています。

【高田さんの感想】

私は、今回の読書を通して、これまでの自分の読書生活を見直す必要があるのではないかと考えるようになった。なぜなら、神話や伝承など、これまで全く読んだことのないジャンルの本がたくさんあることに気付いたからである。

高田さんの感想を  
 な課題があると考  
 次の条件にしたが

条件

- ・ 自分自身の
- ・ 二文構成と
- ・ 百二十字以

〈解答のポイント〉  
 次の①～⑦に気を付けて書きましょう。  
 ① これまでの課題が書いてあること。  
 ② これからの取組が書いてあること。  
 ③ 自分の体験と結びつけて具体的に書いてあること。  
 ④ 二文構成であること。  
 ⑤ 文中に主語・述語の関係があること。  
 ⑥ 二文目の冒頭に接続詞を使っていること。  
 ⑦ 九十六字以上(字数制限の八割以上)、百二十字以内であること。

|   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ん | 学 | 書 | え | 偏 | 随 | を | 私 |
| で | な | の | た | っ | 筆 | 振 | は |
| い | ど | 目 | 。 | て | ば | り | 、 |
| き | 、 | 的 | そ | い | か | 返 | こ |
| た | 幅 | に | こ | る | り | り | れ |
| い | 広 | 応 | で | こ | を | 、 | ま |
| と | い | じ | 、 | と | 読 | 好 | で |
| 考 | ジ | て | 私 | が | む | き | の |
| え | ヤ | 、 | は | 課 | な | な | 自 |
| て | ン | 歴 | 、 | 題 | ど | 作 | 分 |
| い | ル | 史 | こ | で | 、 | 家 | の |
| る | の | や | れ | あ | 選 | の | 読 |
| 。 | 本 | 社 | か | る | ぶ | 小 | 書 |
|   | を | 会 | ら | と | 本 | 説 | 生 |
|   | 読 | 科 | 読 | 考 | が | や | 活 |